

「生態系を データとして とらえる／表現する」

Understanding and Creatively Expressing Ecosystems as Data

データで捉え、表現することを通じ、マルチスピーシーズの視点から生態系を再認識する。

アーティスト・研究者による講演と、ワークショップの成果展示を開催！
Understanding and expressing ecosystems through data to reinterpret them from multispecies perspectives:
keynote lectures by artists and researchers, and an exhibition of workshop results.

基調講演

01__

オロン・カツ (アーティスト / SymbioticA 共同創設者)

「変わりゆく生命の概念」

9月21日 (土) 17:00~18:30

02__

エリザベス・エナフ (計算生物学者、アーティスト)

「多種が共存する都市と微生物による指標：
科学的で創造的な実践から」

10月12日 (土) 19:30~21:00

03__

村上久 (研究者)

「群れの科学：バラバラな足並みと動きの読み合い」

10月13日 (日) 18:30~20:00

04__

中村桂子 (JT 生命誌研究館名誉館長)

「38億年の生命の歴史物語に学ぶー生命誌」

10月15日 (火) 19:00~20:30

成果展示

10月17日 (木) ~ 10月20日 (日) 13:00~19:00

会場：シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

入場無料 申込不要

CCBT

シビック・クリエイティブ・ベース東京

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] では、生態系のデータを取得・解析する技術と、それらをデータビジュアライゼーションやアート表現として構想する「未来提案型キャンプ」を2024年10月に開催します。

これに関連し、アート、デザイン、行動学、生命の歴史物語の4つのテーマから、基調講演を全4回開催します。人間の行為による生態系への負の影響が課題となる現在、私たちの生活を含む生態系全体を捉える方法と、それら全体を豊かにするための新たな指針を、国内外のアーティスト、研究者の実践から学ぶ機会です。

基調講演 Keynote Lectures

01

オロン・カツ

「変わりゆく生命の概念」※日英同時通訳付

"Life is Not What it Used to Mean" *Japanese-English simultaneous interpretation will be provided.

9月21日(土) 17:00~18:30

生命の存在や現象を示す概念を表す言葉はとても限定的です。一方で、生命科学に直接的に関与する芸術は、私たちの文化ではまだ言葉になっていないものに光を当てることができるでしょう。30年に渡るアーティスト、研究者、キュレーターとしての自身の経験からお話します。

オロン・カツ (アーティスト / SymbioticA 共同創設者)

西オーストラリア大学人間科学科併設のバイオアート研究センター「SymbioticA」共同創設者兼ディレクター。1996年にイオナ・ズールとともに「The Tissue Culture & Art Project (組織培養 & アート・プロジェクト)」を立ち上げ、プロジェクトの一環として初の培養肉の作製と美食に成功。2004年には「ヴィクティムレス・レザー」という、動物を傷つけることなく作り出した組織培養による皮革を発表。

02

エリザベス・エナフ

「多種が共存する都市と微生物による指標：科学的で創造的な実践から」※日英同時通訳付

"Microbial Metrics and the Multispecies City: Scientific and Creative Practice"

*Japanese-English simultaneous interpretation will be provided.

10月12日(土) 19:30~21:00

ヒトが作り出した都市には特有の微生物生態系が存在します。DNA解析により、このような目には見えない生命のデータが可視化できるようになってきました。都市における建築素材と微生物生態系の関係を調べた自身の実践などから、ヒトと他種とが共存する都市生態系についてお話します。

エリザベス・エナフ (計算生物学者、アーティスト)

ニューヨーク大学大学院工科大学院統合デザイン・メディアプログラム助教。ソフトウェア、ハードウェア、ウェアのウェアのツールをつくりながら、ヒトの活動による変化に焦点を当てた都市環境における微生物指標を研究。学術論文に代わり、様々な作品を国内外で発表。

成果展示 Results Exhibition

DNA解析やセンサー、カメラ等を利用して微生物群の存在や動植物の観察をし、生態系をデータとして捉え、表現することに挑戦した5日間の集中キャンプ。成果展示では、期間中のワークショップの様子と、参加者による作品・プロトタイプを紹介します。

The five-day workshop camp saw participants use sensors and cameras to explain microbes and observe flora and fauna, and attempt to interpret and express ecosystems in data form. The exhibition introduces the workshop and presents the resulting works and prototypes made by the participants.

会期：10月17日(木)~10月20日(日) 13:00~19:00

[参加者一覧(予定)]

有馬いりん (クリエイティブアルケミスト)

石渡智里 (慶應義塾大学学生)

猪口陽平 (デザイナー、リサーチャー)

上田羊介 (サイエンスコミュニケーター)

ssmtat (多摩美術大学大学院生)

小川愛結 (大学生)

大平麻以 (デザインエンジニア、東京大学大学院生)

越智梓 (デザイナー)

川原圭汰 (アーティスト)

古山寧々 (多摩美術大学大学院生)

佐野風史 (サウンドアーティスト、デバイスクリエイター)

Shion Kim (金志) (アーティスト、データアナリスト)

志智友海 (会社員)

渋谷和史 (アーティスト、多摩美術大学大学院生)

菅野祥 (学生)

タゴチャン (アーティスト)

田中マサト (静岡文化芸術大学大学院生)

Tokuno Kihiro (デザイナー)

なかのかな

中橋佑里 (人猫作家、デザイン研究者)

Nanami (早稲田大学学生)

新名さくら

橋本優花 (京都大学大学院生)

羽田光佐 (アーティスト)

平松守瑠 (明星大学大学院生)

平山理貴 (デザインエンジニア)

YO_TEISION (桑沢デザイン研究所学生、国立研究機関テクニシャン)

※基調講演および成果展示は、2024年10月12日~16日まで実施するシビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] の未来提案型キャンプ「生態系をデータとしてとらえる／表現する」の関連イベントとして開催されます。(キャンプの申込みはすでに終了しております) プログラムディレクション：榎本輝也 (科学者、研究者)、津田和俊 (研究者)

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

https://ccbt.rekibun.or.jp/

E-mail: ccbt@rekibun.or.jp

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町3-1 渋谷東武ホテル地下2階

アクセス：渋谷駅/ハチ公改札口より徒歩8分

開館時間：13:00~19:00 休館日：月曜日 (祝日の場合は開館、翌平日)

電話：03-5458-2700 (開館時のみ)

Shibuya Tobu Hotel B2F (3-1 Udagawacho, Shibuya-ku, Tokyo)

アクセス：8 minutes' walk from Hachiko Exit of Shibuya Station

Opening hours: Tuesday - Sunday, 1:00 pm - 7:00 pm

Tel: +81-3-5458-2700 (Tuesday - Sunday, 1:00 pm - 7:00 pm)

表現する」

生態系をデータ

村上古

「群れの科学：バラバラな足並みと動きの読み合い」

"The Science of Herds—Separate Steps and Interpreting Movement"

10月13日(日) 18:30~20:00

鳥や魚の群れ、また人の歩行者の流れなどは、リーダーや司令塔がいなくても、全体として一個の生き物のように秩序だった振る舞いを見せます。こうした群れはどのようなメカニズムで形成されるのか、「バラバラな足並み」や「動きを読み合う」をキーワードにお話します。

村上古 (研究者 / 博士 (理学))

2015年神戸大学大学院理学研究科博士後期課程修了。2021年より京都工芸繊維大学情報工学・人間科学系助教。ミナミコメツキガニ、オキナワハクセンシオマネキ、アユ、ヒトを対象としながら、群れ行動、探索行動、ナビゲーションに関する実験と計算機モデル構築を行なっている。

04

中村桂子

「38億年の生命の歴史物語に学ぶ—生命誌」

"Biohistory, Learning from the 3.8 Billion-Year History of Life"

10月15日(火) 19:00~20:30

人間は生きものであり自然の一部という事実を踏まえて生態系の一員としての生き方を考えます。自然離れをし、一律の進歩を求める現代文明の行き詰まりを、近年明らかにされた「生きもの本来の生き方」への転換で明るく乗り越えたいと願っています。

中村桂子 (理学博士 / JT生命誌研究館名誉館長)

1936年生まれ。東京大学大学院生物化学博士課程修了。「人間は生きもの」という事実を基本に生命論的世界観を持つ「生命誌」を構想。1993年「JT生命誌研究館」を創設。近著に「中村桂子コレクション8巻」(藤原書店)、「人類はどこで間違えたのか」(中公新書ラクレ)など。

とらえる

